

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第116号(2016. 11. 1)
事務局 川西地区自主防災会

熊本地震と赤十字

日本赤十字社香川県支部事務局長
川部 英則

かがわ自主ぼう連絡協議会の皆さま、こんにちは。
日本赤十字社香川県支部事務局長の川部です。
皆さま方には、地域防災の要として、ご活躍いただいておりますことに対し、心から敬意を表します。

さて、今春発生した熊本地震。

4月14日木曜日21時26分、第1回目の震度7が熊本地方を襲いました。同時に、日赤香川県支部救護班も、出動準備に入りました。翌金曜日の夕方、「九州ブロックの赤十字で対応可能なので、中四国ブロックの応援要請はありません」との連絡。被害が少なく良かったなどと言いながら、各自帰宅をしました。

そう思ったのもつかの間、16日土曜日午前1時25分、再び震度7が熊本地方を襲いました。枕元の携帯が鳴り、音を止めても次の地震でまた鳴り、止めるの繰り返しが続きました。『これは、大変なことになった。出動要請がある』と思い、出勤の準備をしたのです。

予想どおり、日赤の中四国各県支部1班ずつの出動要請。16日午前10時、医療資機材を4台の車に積み込み、医師、看護師等16名を熊本へ向け派遣しました。同じころ、熊本県支部から「避難者が多く、赤十字安眠セット1,000セットを送ってもらえないか」との依頼があり、『困ったときはお互いさま。すぐに送ろう』と運送会社へ配送依頼をし、その日のうちに大型ダンプが出発しました。

これまで熊本県へ派遣した香川県支部救護員等は、医師、看護師や赤十字ボランティアなど総勢61名。救援物資として、赤十字安眠セット（マットレス、枕、アイマスク、耳栓など）1,000人分。皆様から届けられた義援金は1億円を突破し、全額被災地に送金しています。

赤十字は「人間を救うのは、人間だ」とのモットーのもと、災害時の救護班を常備しています。そして、赤十字の独自の訓練や研修を通じて、全国どこの救護班でも同じ対応ができるように努めています。この救護班、香川県支部では、毎年、8班、60名を任命していますが、日本赤十字社全体では、500班7,000名体制となります。

日本赤十字社は、災害対策基本法第2条に規定される指定公共団体ですが、皆様方の自主防災組織もまた災害対策基本法においてその重要性が示されております。

今年平成28年は、昭和南海地震から70年、50名の県人の命を奪った昭和51年の台風災害、いわゆる51災害から40年という節目の年です。天災は忘れたころにやってくると言われております。いざというときに備え、今こそ、自主防災組織の質と量の充実強化が望まれます。赤十字も、万が一に備え、日々研鑽を積んでいきますので、皆様方もさらなる高嶺を目指していただきたいと思います。

かがわ自主ぼう連絡協議会の今後ますますの飛躍、発展をお祈り申し上げます。



4月16日香川県支部救護班第1班16名が熊本へ出発



熊本市内の避難所で救護活動を行う医師、看護師ら



医療ニーズを把握しながら避難所へ向かう救護員

第3回『お客様参加型、営業中防災訓練の実施について』

平成 28 年 9 月 23 日
株式会社フジ フジグラン丸亀
店長 木谷 晃二

1. フジグラン丸亀の概要

フジグラン丸亀は、平成 11 年 7 月オープン、丸亀市川西町南の土器川沿い 67000 m²のショッピングセンター。

入店店舗は、株式会社フジの食品館・生活館とDCMダイキ株式会社を核とし株式会社レディ薬局・株式会社大創産業・株式会社すかいらーく・株式会社宮脇書店などの飲食・物販店舗に、株式会社百十四銀行・日本郵便株式会社・丸紅エネルギー株式会社といった生活に密着した施設を加えた、計 40 の店舗がある。

2. 地域連携を主体とした店舗運営

フジグラン丸亀は、川西地区自治会へ加入しており、自治会主催の防災まつり・健康ウォークなどへの参加、秋まつりの協賛のほか、日々の営業の中では、廃棄物減量化・リサイクル対策としてのエコステーション設置～店頭リサイクル回収（食品トレイ、紙パック、アルミスチール缶、充電式電池）に取り組み生活拠点としての役割をしている。

県産品の普及への取り組みとして、青果を中心とした「地産地消・地元の逸品」コーナー設置し、地元銘菓・土産品の取り扱い販売をしている他、保育所・小学生による母の日・父の日似顔絵コンテストを毎年実施、中高生・養護学校の生徒の職場見学・実習に協力している。



3. 営業中における防災訓練の狙い

今年で3回目となる、『営業中におけるお客様参加型防災訓練』。年間で別途3回、開店前に従業員の防災訓練を実施していることもあり、訓練に慣れてきたが、今回は、更に緊張感を出す為、『現場中心でリーダーがシッカリ指示を出す』ことを主に課題として臨んだ。実際の災害時には、訓練通りに実施出来ない社員もいるということを予測し、其の中で誰がリーダーシップをとり、何をするか、作業時の掛け声はどうするかなどを主に事前打合わせした。また、今回も、ゼッケン・腕章・ヘルメットなどの備品を使い、班長がメンバーを把握し、進行し易くなる様準備した。お客様も熊本・北海道など記憶の新しい地震・台風災害があった分、真剣に参加いただき、今回のイベントの効果は大きく、「また次回も参加したい」というお客様もいた。

今回も、川西地区自主防災会の力添えでの訓練となったが、『共助の精神、地域・お客様・企業の連携』によって、防災訓練が出来た。

4. 営業中における防災訓練の内容

震度6強の地震発生からの一斉シェイクアウトの呼びかけに始まる。ショッピングセンターにおいては「買い物カゴ」は頭を守る道具として身近にあるもの。約60秒の安全行動から実施した。

従業員も同様の姿勢をとった後、電気ガス施設の確認、避難路の確保の行動。

館内放送に並行して、お客様を広い通路から店舗外への避難誘導と次の地震に備える行動実施。



地震でのけが人を2名に設定し、内1名分は約40キロの訓練用の人形で実施。



けが人搬出と同時に、パン屋のオープンから出火。6名の消火器隊と6名の消火栓隊に分け模擬消火を行う。鎮火に成功の設定から残留者が居ないことを確認し全員退避した。



避難場所へ集合後、各班長から今回の訓練組織の隊長である私に全員退避の報告を受ける。

5. 訓練終了後のお客様の反応など

店舗の課題「臨場感の演出・従業員の声」が、前回以上に出来た結果、お客様への行動誘導がシッカリ出来た。

第一行動のシェイクアウトを直前で60秒と長くしたが、シッカリ現場は対応でき、避難行動までスムーズに進んだ。

従業員の模擬行動の声出しも出来ていた分、お客様に『ショッピングセンターでの防災・避難』が理解いただけましたと思います。

真剣に取り組んでいるお客様も多数おり、従業員の士気も高まった。

実施1週間前から、店頭・ホームページ・スマホアプリ・館内放送・チラシ広告で実施の案内をしました。

近隣の城辰保育所や親子で参加いただいたお客様もおられ、前回以上の参加者でした。(計150名での訓練となる)

お客様参加型 **防災訓練** 実施のお知らせ

9月23日(金)
あさ9時30分～10時
当店におきましてお客様参加による
防災訓練を実施いたします。

●当日、訓練時間中に非常放送の音声が流れます。予めご了承ください。
●訓練にご参加いただけるお客様には、当日店舗入口で参加者用ゼッケンをお渡しいたします。ご着用の上、係員の誘導に従い、指定の避難場所へ避難をお願いいたします。

**訓練中も、平常通りお買物を
していただけます。**

ご来店のお客様には大変ご迷惑をおかけいたしますが地震・火災などの際、お客様に安全に避難をしていただくための訓練です。何卒、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

株式会社 フジ

玄関での 告知看板

6. 訓練終了後の振り返り

まだまだ、臨場感の演出が必要。

- ・今回は、「地震の音」を館内放送機器に録音し、聞こえ易くし音量を上げて実施しましたが、BGM機器の為、店内の場所によって聞こえ方に差がありました。事前のリハーサル時に確認し、音響機器を追加して臨めば、更に緊張感が上がると思います。火災時の非常ベルは、放送ではなく現場で鳴るので、館内放送の声が通り辛い状況になります。

館内放送の声は、肉声案内の為、もっと大きな声での実施が必要でした。

- ・火災現場は、パトライトの演出で、消火班に分かり易く取り組めました。
- ・店内照明は前回同様に若干落とすだけとした。半減させると、更に臨場感が出るが、これは、お買物を急がれているお客様への配慮で、必要なことでした。
- ・避難誘導員には、誘導の旗を渡していたが、誘導灯やレジ設置の懐中電灯も併用して実施した。

臨場感が上がることで、訓練への取り組む姿勢も変わってくると感じました。

もっと沢山の方に、参加していただく為に、

- ・次回は、もっと早くから計画し、2週間前からの告知を課題とします。
- ・ディベロッパーである弊社従業員での実施だったが、館内のテナント店舗の従業員にももっと参加いただき、本来のこの訓練の意味「有事の際の行動」を指導していかなければならないと思います。

事務局だより

平成28年11月

今月の事務局だよりは、会長活動報告です。

今月は鹿児島県よりレポートします。

10月1日(土)から10月2日(日)にかけて、国土交通省九州地方整備局「川内川」河川事務所の要請により、防災講演を行なってきました。

「川内川」は総延長 198km 源流は熊本県であって、ほぼ中間地点に鶴田ダムがあります。えん提長さ約 420M、高さ 100m を超える巨大なダムです。

この「川内川」が丁度 10 年前(平成 18 年 7 月)、3 日間の雨量が 1,000 ミリを超えたことによって大はんらんを起こして甚大な被害が発生しました。

川内川大洪水から 10 年、「防災・減災」を考えるシンポジウムの基調講演を担当させていただきました。

シンポジウムの当日(10月2日)の午前中、国交省の副所長さんに案内していただき、川内川の視察を行ないましたが、平常はおだやかな表情した川で、上流域には東洋のナイアガラといわれる立派な滝もありました。更には、だ行している川の流れを「分水路」(新設)に流して、はんらんを防ぐ手だても数カ所、完成しておりました。



編集後記

今月の防災減災の輪は、日本赤十字社香川県支部事務局長 川部様、株式会社フジ フジ グラン丸亀店長 木谷様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。